

1. 定性評価・コメント

当ファンドシリーズではファミリーファンド方式が採られており、実質的な運用は「国内株式パッシブ・ファンド(最適化法)・マザーファンド」、「国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド」、「外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド」、「外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド」で行われています。各ペビーフンドでは基本組入れ比率を維持した運用を行うため、以下の運用プロセス、運用体制は主として各マザーファンドを評価対象とします。

総合評価	「運用方針」は具体的かつ明確です。各資産の「運用プロセス」は判断基準・ルールが明確であり、運用の継続性は確保されています。各資産の「運用体制」は運用責任者の経験、担当ファンドへの専念度合い、運用メンバーの安定性・バックアップ体制等を含めて問題はありません。2025年4月に国内債券マザーで運用責任者が交代しました。新責任者はパッシブ運用経験は必ずしも十分とは言えませんが、前責任者を含む経験豊富な運用チームメンバーがサポートする体制が整っており、運用に支障はありません。その他の資産の責任者は十分なパッシブ運用経験を有しており、運用に支障はありません。「組織・管理体制」は運用と管理が明確に分離され、牽制機能が十分に働く体制となっています。「ディスクロージャー」は評価できる内容となっています。「企業基盤」に関して、当社は強固な経営基盤を有し、財務・業務基盤も極めて安定しています。
------	---

運用方針 当ファンドシリーズは、国内株式・債券、外国株式・債券を主要投資対象とし、株式組入れ比率等が異なるタイプのファンド(以下、各ペビーフンド)で構成されています。各ペビーフンドの資金は、それぞれの基本組入れ比率(第1表)に基づき、各マザーファンドに投資されます。各マザーファンドのベンチマーク収益率を基本組入れ比率で加重平均した合成ベンチマークにおおむね連動することを旨とし、実績トラッキングエラーを年率0.8%以下に収めることを目標としていることから、運用方針は具体的かつ明確です(第2表)。なお、外貨建て資産に対する為替ヘッジは原則として行いません。

投資対象資産	1安定型	2安定・成長型	3成長型
国内株式	19	30	40
国内債券	65	43	22
外国株式	5	12	19
外国債券	8	12	16
短期金融資産	3	3	3
合計	100	100	100

マザーファンド名	投資対象資産	ベンチマーク	目標トラッキングエラー
国内株式パッシブ・ファンド(最適化法)・マザーファンド	国内株式	東証株価指数(TOPIX、配当込み)	0.20以下
国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド	国内債券	NOMURA－BPI(総合)	0.20以下
外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド	外国株式	MSCI－KOKUSAIインデックス(配当込み、ヘッジなし、円ベース)	0.50以下
外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド	外国債券	FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし、円ベース)	0.50以下

運用プロセス 当ファンドシリーズは、資産配分を意図的に変更することで超過収益率を追求するファンドではないことから、運用プロセスの評価については、各資産の実質的な運用を担うマザーファンドを対象とします。なお、第1表に示した基本組入れ比率を維持した運用を行うため、価格変動により各資産のいずれかが1つでも許容乖離幅である±3%を超えた場合には、速やかに基本組入れ比率に戻す調整が行われます。

- 国内株式パッシブ・ファンド(最適化法)・マザーファンド
東京証券取引所上場株式を投資対象とし、東証株価指数(TOPIX、配当込み)に連動する投資成果を目指すファンドです。実績トラッキングエラーを年率0.20%以下に収めることを目標として、推定トラッキングエラーを年率0.10%以下にコントロールしています。TOPIXを構成する全銘柄のうち流動性が著しく低くかつ時価総額が小さい銘柄を除外した上で最適化を実施し、推定トラッキングエラーを最小化する組入れ銘柄とその投資比率を導出します。この際、個別銘柄の投資比率とベンチマーク構成比率の乖離を一定の範囲内に制限します。同トラッキングエラーが目標以下に収まっていることを確認のうえ、当ファンドのポートフォリオとします。
リバランスは、ベンチマーク採用銘柄に変更があった場合はその都度行います。また、当ファンドとベンチマークの収益率格差、個別銘柄保有比率のベンチマーク構成比からの乖離、ベンチマーク構成銘柄の資本異動等を日次でモニターし、リバランスの要否を検討します。追加設定・解約による資金の流出入時には、原則として先物を利用した効率的なキャッシュマネジメントにより、コストを抑えつつ、ベンチマークとの連動性を追求します。

- 国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド
わが国の公社債を主要投資対象とし、NOMURA－BPI(総合)に連動する投資成果を目指すファンドです。実績トラッキングエラーを年率0.20%以下に収めることを目標として、推定トラッキングエラーを同0.15%以下にコントロールしています。
ベンチマークに採用されている全銘柄のうち、流動性等を勘案した上で投資対象銘柄を選定します。更に、選定された投資対象銘柄に対して最適化を行うことにより組入銘柄を決定します。
非国債部分については、債券種別ウェイトがベンチマークから乖離していると判断した場合に調整を行います。国債部分については、債券リスクモデル等を利用することにより、ベンチマークと連動性の高いポートフォリオを構築します。
構築されたポートフォリオに対しては、リスクチェックを行い、必要に応じてポートフォリオを再調整します。
リバランスは、毎月末のベンチマーク構成銘柄の入替えに合わせて定期的に行うほか、日々の追加設定・解約に伴う資金流入入時にもその要否を検討した上で行います。

- 外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド
日本を除く世界各国の株式を主要投資対象とし、MSCI－KOKUSAIインデックス(配当込み、ヘッジなし、円ベース)に連動する投資成果を目指すファンドです。実績トラッキングエラーを年率0.5%以下に収めることを目標として、推定トラッキングエラーを同0.10%以下にコントロールしています。為替ヘッジは原則として行いません。
ベンチマーク採用銘柄から、流動性が著しく低くかつ時価総額が小さい銘柄を除外したものを投資対象銘柄とします。つぎに、リスクモデルを用いた最適化を実施し、推定トラッキングエラーを最小化する組入れ銘柄とその投資比率を導出しポートフォリオを決定します。
リバランスは、ベンチマークとの収益率格差、キャッシュ比率等を日次でモニターし、その要否を検討します。また、追加設定・解約による資金の流出入時には、原則として先物を利用した効率的なキャッシュマネジメントにより、コストを抑えつつ、ベンチマークとの連動性を追求します。

- 外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド
日本を除く世界各国の債券を主要投資対象とし、FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし、円ベース)に連動する投資成果を目指すファンドです。実績トラッキングエラーを年率0.5%以下に収めることを目標として、推定トラッキングエラーを同0.15%以下にコントロールしています。為替ヘッジは原則とし

て行いません。
ベンチマーク構成国の銘柄から、流動性基準等を勘案した投資対象ユニバースを決定します。
投資対象ユニバースに対しては、金利の期間構造や為替リスクを算出する債券リスクモデル等を利用して最適化を実施し、ベンチマークと連動性の高いポートフォリオを構築します。
リバランスは、ポートフォリオの属性分析を実施し、その必要性を判断します。属性分析により年限、通貨、銘柄、リスク量、クーポン、償還再投資等についてポートフォリオとベンチマークとの乖離を管理し、調整します。また、追加設定・解約による資金の流出入時には、効率的なキャッシュマネジメントにより、コストを抑えつつ連動性を維持した運用を行います。

運用はファミリーファンド方式で行われていることから、通常、ペビーフンド設定時の基準価額とマザーファンドのそれとは1日のタイムラグが生じます。しかし、当ファンドシリーズでは、追加設定に際して前日の基準価額でのマザーファンドの買付けを実現することで、このタイムラグをなくし、合成ベンチマークとの連動性に配慮しています。

運用体制 運用責任者の主な業務は各資産の基本組入れ比率の管理のみであることから、運用体制の評価では、実質的な運用を担う各マザーファンドの運用責任者を対象とします。
2025年4月に国内債券マザーで運用責任者が交代しました。新責任者はパッシブ運用経験は必ずしも十分とは言えませんが、前責任者を含む経験豊富な運用チームメンバーがサポートする体制が整っており、運用に支障はありません。その他の資産の責任者は十分なパッシブ運用経験を有しており、運用に支障はありません。担当ファンド数がやや多い資産もありますが、概ね運用に専念できる環境にあります。
いずれの資産の引継ぎ想定者も十分なパッシブ運用経験を有しています。また、チーム運用体制が確立されており、各資産において十分な経験を有するメンバーが在籍していることから、バックアップ体制に問題はありません。
パッシブ運用の品質維持・向上は、当ファンドの運用部門が担当しており、投資技術の開発や改善に努めています。

組織・管理体制(ガバナンス) コンプライアンスは所管部署でチェックされます。結果は所定の会議に報告され、違反事項は同会議で審議されます。リスク管理項目は所管部署でモニターされます。規制に抵触した場合は運用部門に是正要請が行われ、結果は所定の会議に報告されます。パフォーマンスは所管部署が評価し、結果を所定の会議に報告の上、運用部門にフィードバックします。改善を要する場合には、同会議から改善要請が行われます。
所管部署はいずれも明確で、管理項目、チェック・報告頻度は、おおむね十分です。売買執行部門と運用部門は分離されているとは言えませんが、不正取引等を防止する対応がとられており問題ありません。それらを管理する部門は両部門から独立しています。他の独立部門による監査も行われており、牽制機能が働いています。

ディスクロージャー 目論見書には、合成ベンチマークならびにそれにおおむね連動させる旨の運用方針が明確に記載されています。また、運用リスクに関する説明に加え、各マザーファンドの投資対象や運用方針の説明もなされており、十分な内容と言えます。
運用報告書には、当ファンドシリーズと合成ベンチマークの収益率ならびに連動性に関するコメントが記載されており、十分な内容です。
月報には、合成ベンチマークとの連動性が把握できるように、設定来および短期・中長期にわたる比較が記載されているほか、ポートフォリオの概要が記載されており、十分な内容と言えます。

企業基盤 当社は議決権保有比率でみずほフィナンシャルグループが51%、第一生命ホールディングスが49%(経済的持分はみずほFGが70%、第一生命HDが30%)出資する資産運用会社として強固な経営基盤を有しています。また、極めて安定した財務基盤、業務基盤のもとに規律のある経営が行われています。

運用実績 直近3年間(2022年4月～2025年3月)の修正トラッキングエラー(注2)は、「DIAMバランス・ファンド<DC年金>1安定型」が0.09%、「同2安定・成長型」が0.12%、「同3成長型」が0.13%となっており、合成ベンチマークと極めて高い連動性が認められます。
また、直近1年間(2024年4月～2025年3月)の修正トラッキングエラーは、「DIAMバランス・ファンド<DC年金>1安定型」が0.09%、「同2安定・成長型」が0.11%、「同3成長型」が0.13%、同期間における各月の1年修正トラッキングエラーはそれぞれ、年率0.08%～0.09%程度、同0.10%～0.12%程度、同0.10%～0.13%程度で推移しています。

(注1)運用実績の分析は運用管理費用控除後ベースで実施しています。
(注2)弊社では、運用実績の評価に際して、ベンチマークとファンドの連動性をより的確に把握するために、通常のトラッキングエラー(月次超過収益率の標準偏差)の他に、下記算式による修正トラッキングエラーも用いています。

$$\text{修正トラッキングエラー(年率)} = \sqrt{\{(\text{月次超過収益率の2乗の平均}) \times 12\}}$$

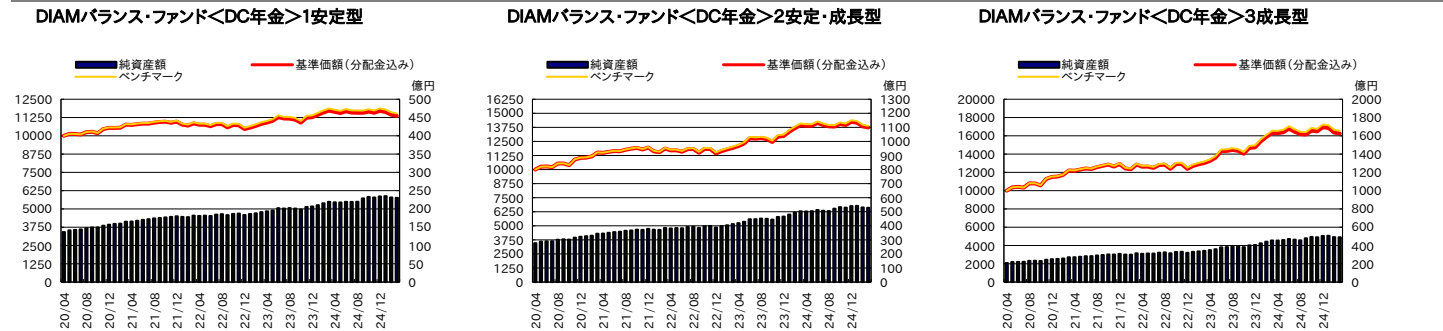
2. ファンド概要・運用実績等

ファンドの概要

Table with 3 columns: DIAMバランス・ファンド<DC年金>1安定型, DIAMバランス・ファンド<DC年金>2安定・成長型, DIAMバランス・ファンド<DC年金>3成長型. Each column contains a table with details like 運用 (Asset Management One), MAB分類 (複合資産), 設定日 (2002年12月13日), 基準価額, and 分配金.

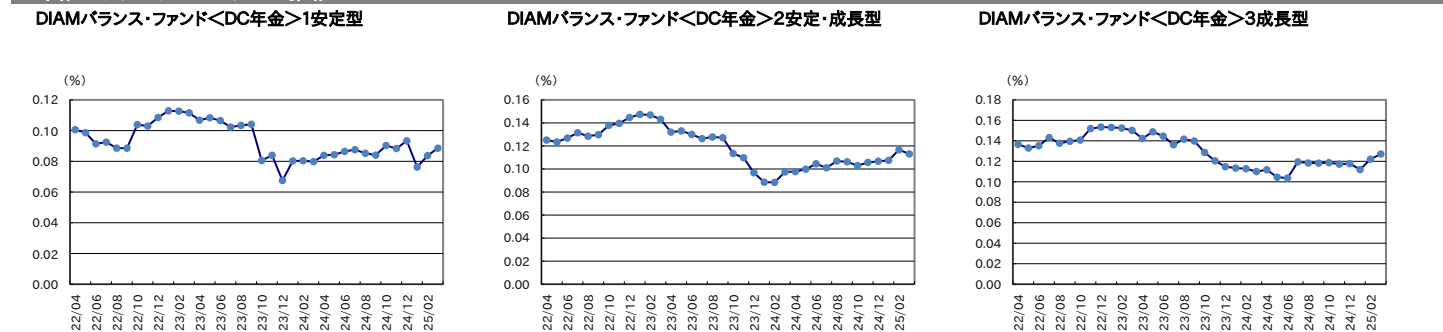
(注)運用管理費用は、年率、税込み(10%)表示です。

基準価額・純資産額推移



*基準価額は左目盛り、純資産額は右目盛り。
*基準価額およびベンチマークはファンド設定期間が5年未満のものは設定月末時、5年超のものは基準日より5年前の時点をもとに10,000とした指数値にて表記しています。

1年修正トラッキングエラーの推移



ファンドの特徴

当ファンドシリーズは、国内株式・債券および外国株式・債券を主要投資対象とする、以下の3タイプのファンドから構成されています。
・DIAMバランス・ファンド<DC年金>1安定型
株式の実質組入比率を40%以下、外貨建て資産のそれを30%以下とし、リスクを抑えた運用を行います。基準価額の変動が比較的小さいタイプです。
・DIAMバランス・ファンド<DC年金>2安定・成長型
株式の実質組入比率を60%以下、外貨建て資産のそれを50%以下とし、安定・成長型の運用を行います。基準価額の変動が中程度のタイプです。
・DIAMバランス・ファンド<DC年金>3成長型
株式の実質組入比率を80%未満、外貨建て資産のそれを55%以下とし、成長性を重視した運用を行います。基準価額の変動が比較的大きいタイプです。

ファンドの収益率と組入れ比率

DIAMバランス・ファンド<DC年金>1安定型. Includes a table of performance metrics for 2024年9月 and 2025年3月, and a pie chart showing the asset allocation: 国内株式 (18.79%), 外国株式 (4.83%), 国内債券 (65.50%), 外国債券 (7.95%), 現金・短期金融資産等 (2.92%).

DIAMバランス・ファンド<DC年金>2安定・成長型. Includes a table of performance metrics for 2024年9月 and 2025年3月, and a pie chart showing the asset allocation: 国内株式 (29.93%), 外国株式 (11.72%), 国内債券 (43.32%), 外国債券 (12.00%), 現金・短期金融資産等 (3.04%).

DIAMバランス・ファンド<DC年金>3成長型. Includes a table of performance metrics for 2024年9月 and 2025年3月, and a pie chart showing the asset allocation: 国内株式 (40.07%), 外国株式 (18.47%), 国内債券 (22.35%), 外国債券 (15.96%), 現金・短期金融資産等 (3.15%).

●本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・マネジメント株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
●本レポートは、投資信託委託業者等から入手した情報およびMABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の真実性・正確性をMABにて調査・確認したものではありません。
●MABは、本レポートの利用に際して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
●本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保障するものではありません。
●本レポートは、情報提供を目的としたものであり、本投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。
●投資信託はリスクを含む商品であり、したがって元本保証はありません。
●本レポートは、コンサルティングサービス契約に基づきMABが報酬を得て作成し、使用許諾を与えたものです。
●本レポート中の運用実績の分析は、原則として運用管理費用控除後、配当込みベースで実施していることや、ベンチマーク算出方法(配当・高替)の違い等から、投資信託委託業者等の分析とは異なる場合があります。
●(業績)超過収益率のデータはMAB独自の計算によるものであり、ファンドとベンチマーク収益率の差とは一致しない場合があります。
●2.ファンド概要・運用実績等の数値は、基準日当日のデータを使用して算出するほか、基準日前日のデータを使用して算出する場合があります。
●1年修正トラッキングエラーは、FTSE Fixed Income LLC(以下、FTSE FI)により運営されている債券指数です。同指数はFTSE FIの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE FIが有しています。FTSE FIの承認を得たうえで、MABが計算したものであります。
●MSCI-KOKUSAIインデックスに関する著作権等知的財産権すべては、MSCI Inc.に帰属します。MABが運用実績の分析に際して使用しているMSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、ヘッジなし、円ベース)は、MSCI Inc.が公表するインデックスをもとに、同社の承認を得て、MABが計算したものです。
●NOMURA-BPI(総合)に関する著作権等知的財産権は、野村フィデューシヤリ-リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。
●東証株価指数(TOPIX、配当込み)の指数値及び東証株価指数(TOPIX、配当込み)に係る著作権又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社の知的財産です。